国土交通省　東北地方整備局
青森河川国道事務所
Aomori office of river & National highway

記者発表
Press Release

平成２７年１２月２５日
青森河川国道事務所

【開通１年後】
一般国道101号　五所川原西バイパスが全線開通して
～日常生活や産業活動等において時間短縮の効果～

■　一般国道 101 号五所川原西バイパス（延長 3.8km）が平成 26 年 11 月 3 日に全線開通しました。
　開通１年後の交通状況・整備効果をとりまとめたのでお知らせします。

【交通状況】

■五所川原西バイパスへ利用交通が転換、市街地の混雑が緩和

○五所川原西バイパスの交通量が約５，５００台、並行する国道・県道では五所川原西バイパスの利用により交通量が１，８００台/日減少

○五所川原市街地の旅行速度が、２０Km/h 未満が１８％から１４％へ減少。姥菟（うばやち）交差点と田町東交差点の渋滞が解消。

○五所川原西バイパス利用者の約７割が「移動時間の短縮」を実感

【ストック効果】

■新鮮な農産物「つがるブランド」等を全国へ安定的に輸送

○五所川原西バイパス開通により、「つがるブランド（スイカ、メロン他）」を中心とした新鮮な農産物の効率的で安定した輸送が可能となり、青森県産メロンの東京市場での取扱量のシェアが増加（Ｈ２３⇒Ｈ２７　１．６倍）

○ブロッコリーの出荷量や販売単価が年々増加し、平成２７年は過去最高を記録

■高速ネットワーク延伸によりインバウンド観光を支援

○五所川原西バイパス開通により、新幹線や空港等の交通拠点から「６０分圏」を確立

○鰺ヶ沢町の観光業では、「６０分圏」をセールスポイントに外国人観光客を誘致し、鰺ヶ沢町への外国人宿泊客数は増加（Ｈ２６⇒Ｈ２７　１．４倍）

■地域の安全・安心な暮らしを支える命の道

○五所川原西バイパス開通により、「県立中央病院」への迅速で安定した救急搬送を支援

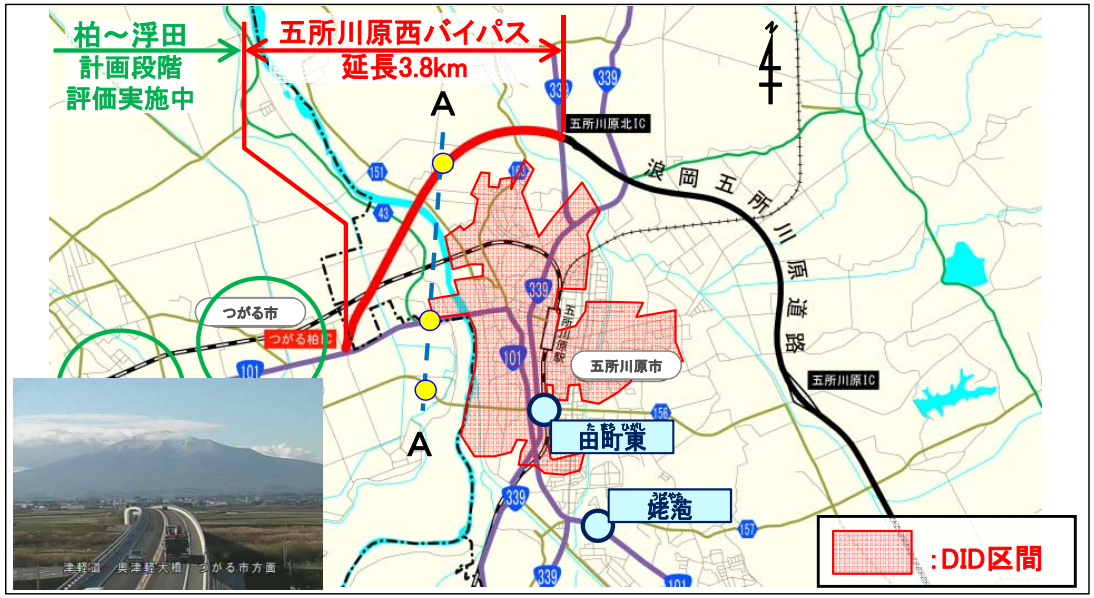
＜記者発表先：青森県政記者会、建設関係専門紙、津軽新報社＞

問い合わせ先

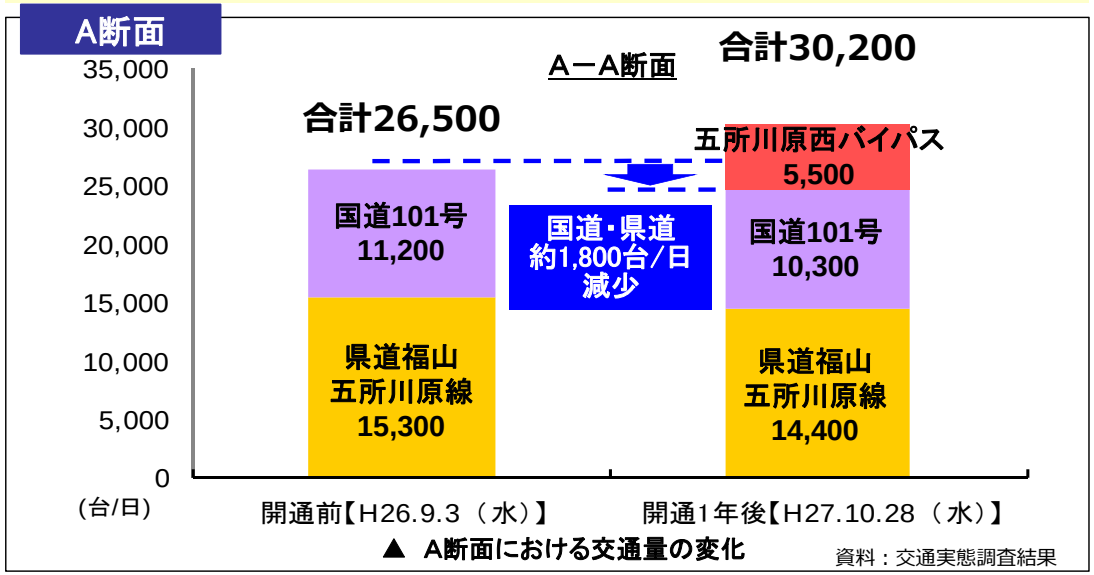
国土交通省 東北地方整備局　青森河川国道事務所
副所長（道路）　高橋（たかはし）　秀典（ひでのり）　（内線 205）
（代表）017-734-4521
調査第二課長　佐々木（ささき）　耕嗣（こうじ）　（内線 451）
（直通）017-734-4570

五所川原西バイパスが開通して ～津軽自動車道が延伸して1年後整備効果～

（平成26年11月3日開通）

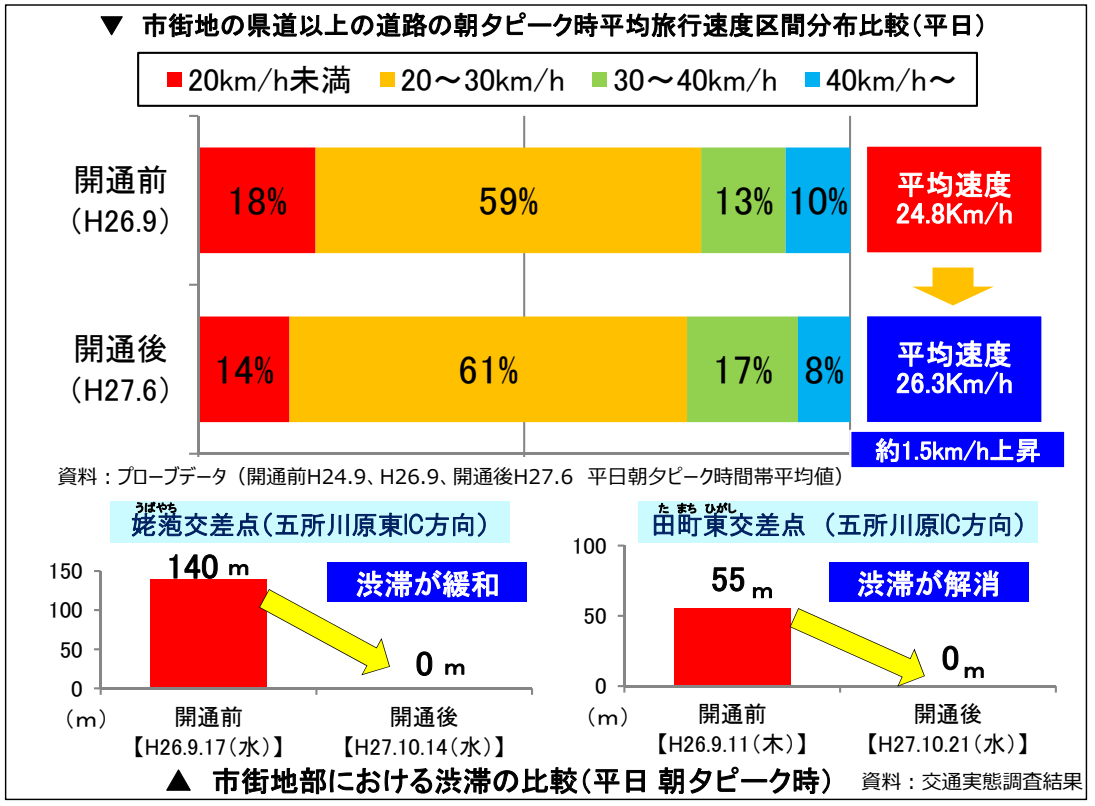


◇五所川原西バイパスの交通量は約5,500台。一方、並行する国道・県道では五所川原西バイパスの利用により交通量が1,800台/日減少



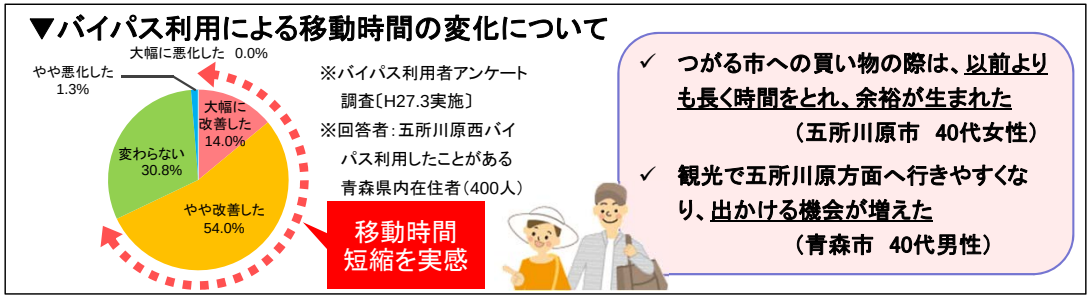
▲ A断面における交通量の変化　資料：交通実態調査結果

◇五所川原西バイパスの並行路線では混雑緩和、市街地の朝夕時間帯における県道以上の旅行速度の20km/h未満が18%から14%へ減少



▲ 市街地部における渋滞の比較（平日 朝タピーク時）　資料：交通実態調査結果

◇バイパス利用者の7割が日常生活における「移動時間短縮」を実感



五所川原西バイパスが開通して　～農産物の安定的な輸送で地域ブランドを確立～

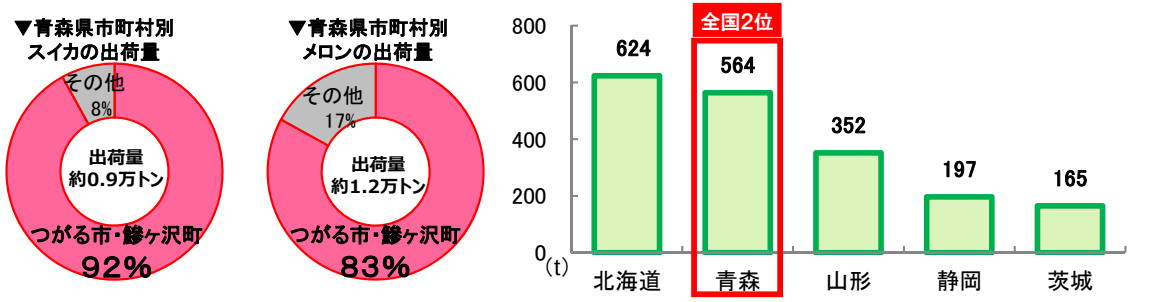
- ◆ 西海岸に広がる屏風山地域（つがる市、鰺ヶ沢町）は、県内有数のスイカ・メロンの産地で「つがるブランド」として大消費地へ出荷
- ◆ 五所川原西バイパスを含む津軽自動車道の整備等により、農産物の安定的な輸送が可能となり、青森県産メロンの東京市場でのシェアが増加傾向（H23⇒H27　1．6倍）

屏風山地域はスイカ・メロンの産地

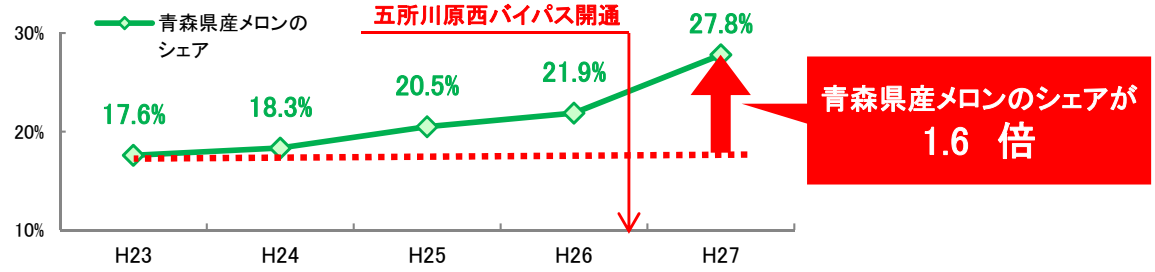


資料：JA全農あおもりヒアリング結果、つがる市HP（写真）

青森県産メロンの東京中央卸売市場取扱量は全国2位



▲東京中央卸売市場県別取扱量【メロン類　8月】



▲東京中央卸売市場のシェア推移【青森県産メロン各年8月】

資料：野菜生産出荷統計（H18）、東京中央卸売市場産地別取扱実績（各年8月）

●地域の声（ヒアリング調査結果）

- ✓ つがる市では、「つがるブランド」8品目（メロン・スイカ・りんご・米・ネギ・ごぼう・トマト・長いも）の生産・出荷に力を入れています。
- ✓ 五所川原西バイパス開通により、鰺ヶ沢町の海産物やつがる市の農産物の輸送がスムーズになり、出荷拡大等の効果を期待しています。　資料：ヒアリング調査結果　H26.7



つがる市
農林水産課



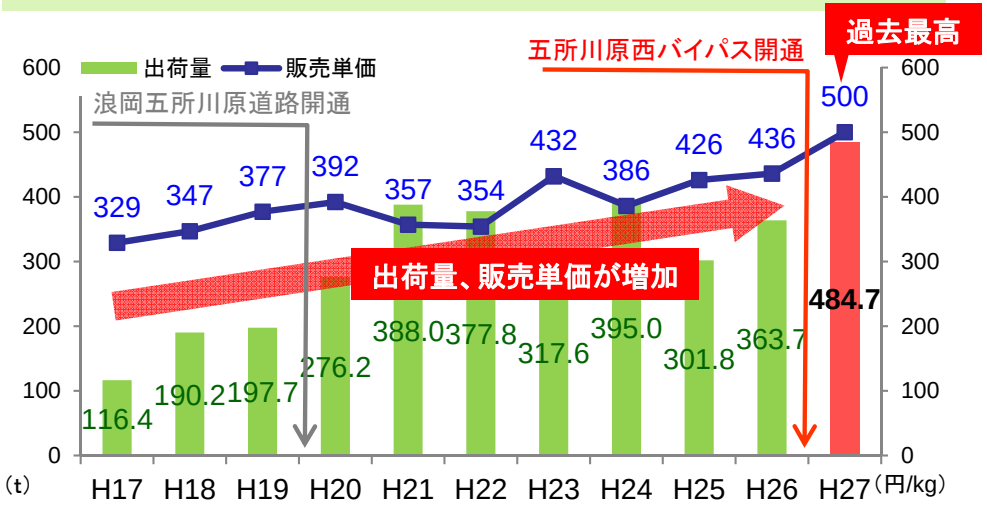
JAつがるにしきた
・運送会社

- ✓ 農産物の出荷は、 市場時間に合わせることが大事です。関東方面への出荷時は、信号が多く混雑する五所川原市内を回避することができ、ドライバーの負担が軽減しました。　資料：ヒアリング調査結果　H27.10

五所川原西バイパスが開通して　～農産物の安定的な輸送で地域ブランドを確立～

- ◆ 西北地域は、冷涼な気候により全国的に品薄な夏期においてもブロッコリーの生産・出荷が可能
- ◆ 津軽自動車道延伸や製氷貯蔵施設等の整備以降、出荷量、販売単価が年々増加
- ◆ H27の出荷量・販売単価は過去最高を記録。地域産業の活性化に貢献

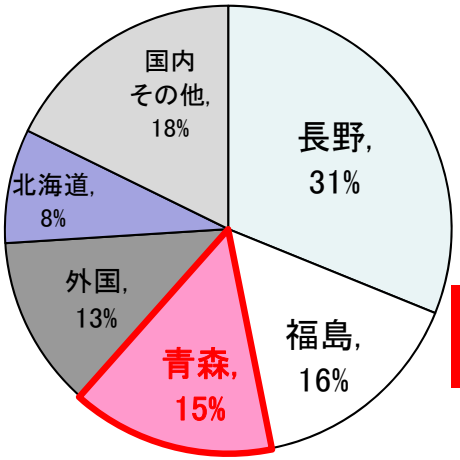
西北地域のブロッコリーの出荷量、販売単価ともに増加



▲「ブロッコリー」の出荷量及び販売単価の推移（JAごしょつがる・つがるにしきた）

資料：JA全農あおもりヒアリング結果（出荷量・販売単価はＪＡ全農あおもり取扱分、H27値は11月時点）

全国的に品薄な夏、秋を中心に生産・出荷が可能



青森県産
ブロッコリー取扱額
●年　間：約2.0億円
●平成27年6月：約1.2億円

東京中央卸売市場のシェアは国内第3位

▲「青森県産ブロッコリー」の東京中央卸売市場シェア（H27.6　金額ベース）

資料：東京都中央卸売市場ＨＰ（H26.11～H27.10）

五所川原西バイパス等を利用し首都圏に出荷



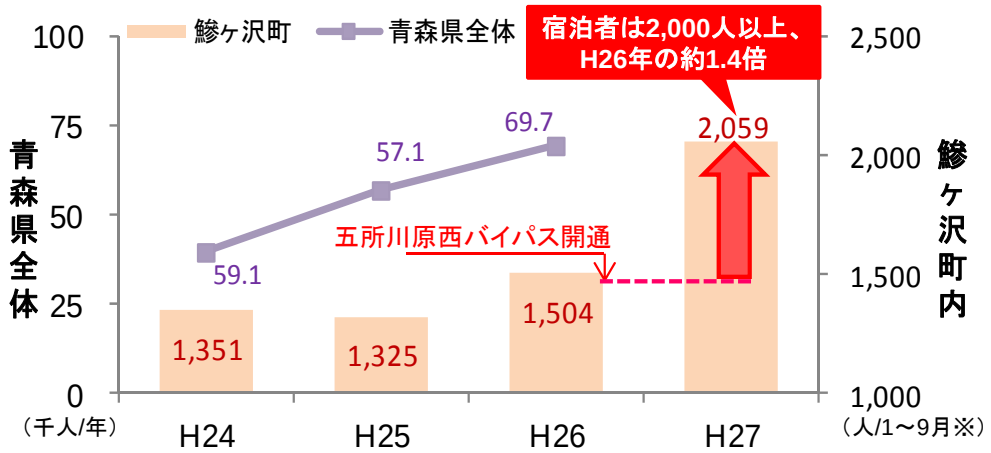
✓ 津軽方面のブロッコリーは製氷貯蔵施設の導入や輸送の効率化などにより、近年、出荷を伸ばしています。

資料：JA全農あおもりヒアリング結果

五所川原西バイパスが開通して　～高速ネットワーク延伸によりインバウンド観光を支援～

- ◆ 鰺ヶ沢町の観光業では、五所川原西バイパス開通による東北新幹線駅、空港などの主要な交通拠点からのアクセス向上（60分圏）を海外エージェントにセールスを展開
- ◆ 鰺ヶ沢町への外国人観光客の泊者数は前年比　約１．４倍に増加

青森県内、鰺ヶ沢町への外国人宿泊者は増加傾向

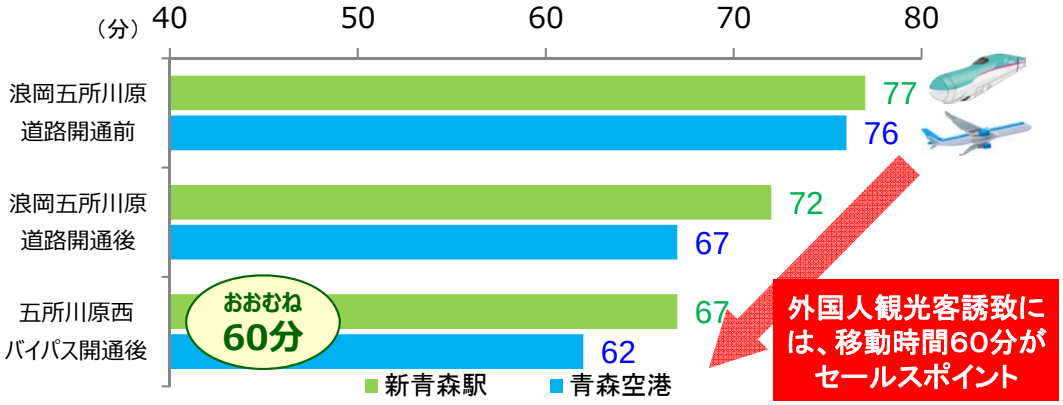


※鰺ヶ沢町宿泊者数は、H27データがある1～9月で比較

▲青森県全体及び鰺ヶ沢町における外国人宿泊客数の推移

資料：青森県観光入込客統計、鰺ヶ沢町ヒアリング結果

五所川原西バイパス開通により、主要な交通拠点から「60分圏」をほぼ達成



▲主要な交通拠点から鰺ヶ沢町の所要時間の変化

資料：H22道路交通センサス（五所川原西バイパス区間は規制速度で算出）

『新青森駅』・『青森空港』から西津軽地域へのアクセスは五所川原西バイパス等を利用



▲外国人観光客の主要な交通拠点となる新青森駅・青森空港

資料：青森空港ビルHP、青森県HP

●鰺ヶ沢町宿泊施設の声（H27.10調査）

- ✓ 近年、当ホテルでは「台湾人観光客」を中心にインバウンド観光に力を入れています。
- ✓ 海外のエージェントは、「空港」や「新幹線」からのアクセス性の良さに興味があり、交通拠点から「60分」が1つの目安となっています。
- ✓ これまで「新青森駅」「青森空港」から約70分と案内していましたが、今回の開通により、『60分程度』と説明することができ印象が大きく違います。

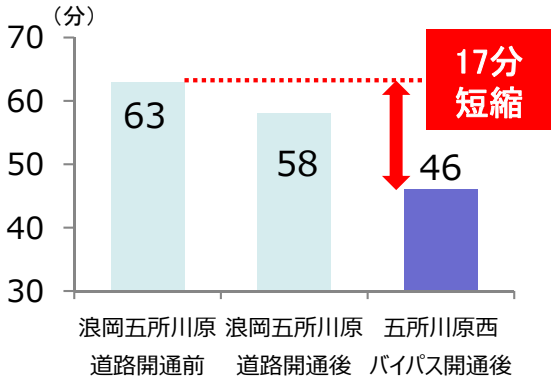
五所川原西バイパスが開通して　～地域の安全・安心な暮らしを支える命の道～

- ◆ つがる市、鰺ヶ沢町には第3次救急医療施設がないため、重篤患者の救急搬送の約7割は青森市の「県立中央病院」へ搬送
- ◆ 五所川原西バイパス開通により、「県立中央病院」への迅速で安定した救急搬送を支援

五所川原西バイパス利用により「県立中央病院」への搬送がさらに迅速・安定化

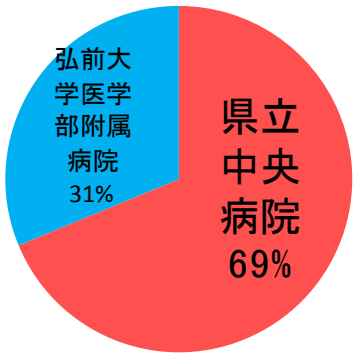


▼つがる市から県立中央病院までの所要時間



資料：つがる市消防本部資料（開通前はH22センサス）

▼つがる市・鰺ヶ沢町から第3次救急医療施設への搬送割合（H24～26）



資料：つがる市、鰺ヶ沢町消防本部資料

- ✓ 開通後、青森県立中央病院への搬送時間が短縮し、時間帯や天候に左右されず、到着時間が読めるようになりました。
- ✓ 開通前は、市街地を通行していたため車の加減速が多く、患者を気にしながら搬送していましたが、開通後かなり負担軽減になっていると感じています。



つがる市消防本部